

## E.サピアを読む (4) —意味研究に係る“Grading”のより良き理解に向けて—

高橋 玄一郎

### 0. はじめに

本稿は、拙稿 (2023) の続編である。米国の人類学・言語学者 E.サピア (Edward Sapir)<sup>1</sup> の意味論三部作<sup>2</sup> の一つ、“Grading” (1944) をとりあげ、英語意味論・語用論、ひいては言語学、言語教育へさらに活かせる機縁をつかめるよう、批判的に読み進めることとする。便宜上、パラグラフごとに吟味していきたい。“Grading” の構成は、次の通りである (下線は引用者による)。

1. The Psychology of Grading
2. Degrees of Explicitness in Grading
3. Grading from Different Points of View
4. Implications of Movement in Grading
5. The Concept of Equality
6. The Classification of Types of Grading Judgment
7. Affect in Grading
8. The Superlative

本稿は、“Grading” の第 6 節 The Classification of Types of Grading Judgment を取り扱う。

まず、第 5 節までの流れを概観しておきたい。Sapir (1944)<sup>3</sup> の第 1 節と第 2 節までにおいて Grading に係る 4 つの明示性が考察され、第 2 節の終わりで、Grading の全域をカバーするとみられる、以下の 4 つの枠組みが示された (Sapir1944 ; cf. 拙稿 2021 の解釈表現を全体的に変更) :

1. Implicitly gradable but ungraded: *house; houses*

---

<sup>1</sup> エドワード・サピアについては、たとえば、佐々木達・木原研三編 (1995) の Sapir, Edward の項を参照されたい。

<sup>2</sup> ここでいう「意味論三部作」とは通称で、“Grading” (1944) の他に、“Totality” (1930) と“The Expression of the Ending-Point Relations in English, French, and German” (1932) がある (cf. 加藤 2017 も参照されたい)。いずれも、当時の国際補助語に関する組織的な検討が発端であったが、実質的には一般言語学的な趣きの濃い、普遍概念文法研究 (studies in universal conceptual grammar) となった。詳細は、Sapir (2008) 所収の Pierre Swiggers による “Introductory note” と John Lyons による “Introduction to Sapir’s texts “Totality,” “Grading,” and “The Expression of the Ending-Point Relations in English, French, and German” を参照されたい。なお、この J. Lyons の “Introduction” には、拙訳 (2020) がある。

<sup>3</sup> Sapir (1944) のテキストは、初出誌をはじめ複数の資料から引用できるが、本稿では、Mandelbaum 編 *Selected Writings* に基づく。

(非明示的に段階別が可能であるが、段階別（程度別）としていない grading)

e.g. *house; houses*

2. Implicitly graded by quantification: *half of the house; a house 20 ft. wide; ten houses*

(数量を定めることで（定数化・定量化して）、非明示的に段階別（程度別）としている grading)

e.g. *half of the house; a house 20 ft. wide; ten houses*

3. Quantified by implicit grading: *much of the house; a large house; many houses*

(非明示的に段階別（程度別）にすることで、数量を定めている（定数化・定量化している grading)

e.g. *much of the house; a large house<sup>4</sup>; many houses*

4. Explicitly graded and implicitly quantified: *more of the house (than); a larger house; more houses (than)*

(明示的に段階別（程度別）とし、非明示的に数量を定めている（定数化・定量化している grading)

e.g. *more of the house (than); a larger house; more houses (than)*

(Sapir 1944: 124, 第2節第2パラグラフ)

以上4種の grading の枠組みのうち、上記3 (Quantified by implicit grading) と4 (Explicitly graded and implicitly quantified) に焦点を当て、Sapir (1944) の第3節 “Grading from Different Points of View” では、論理的観点、心理的観点、そして、それらが統合される言語的観点から、3種の Grading が導出された (Logical Grading と Psychological Grading と Linguistic Grading)。実は、その3種の grading に係る検討には、作業上の前提概念が必要であることが、第4節 Implications of Movement in Grading の冒頭で指摘されるが、それは以下の6つの概念であった (Sapir 1944: 134) :

- 1) The successive development of values by later ones (giving us a set of “lesses” in an open series);  
(開いた連続体において、程度差のある意味 (values) が段階的に少なく (小さく) なりながら連続して包含される;)
- 2) the establishment of a norm somewhere in such an open series;  
(その連続体のどこかに基準が設定される;)
- 3) the placement of values “above” and “below” this norm;  
(その基準を基に、上と下に意味が位置付けられる;)
- 4) the contrasting of specific gradable values which belong to the same class;  
(同じ類のなかで、特定の段階性を持つ意味が対照される;)
- 5) the establishment of continuity between such contrasting values by means of intercalation;

---

<sup>4</sup> *a large house* の場合、数量とは、「量」に相当する容積を表わすものと考えられよう。

(そのような対照的な意味の間には、連続体が挿入される; )

- 6) certain implicit directional notions (upward, e.g. good : better, bad : less bad; downward, e.g. good : less good; bad : worse; contrary, e.g. good-better : bad worse)

(方向性をもつ概念の示唆(上向、下向))

これら6つの概念は、Sapir (1944) の第3節における論理的、心理的、言語的という3つの観点からの Grading を考察するうえで、必要不可欠なものであった。さらに、6番目の概念「方向性を有する概念の示唆」を基点として、第4節 Implications of Movement in Grading が展開された。上向き upward、下向き downward という言葉には原註があり、それを再録しておく：

“Upward” and “downward” are used in the sense of “in the direction of increase” and “in the direction of decrease” respectively. This purely notional **kinaesthesia** may be, and probably generally is, strengthened by a concomitant spatial kinaesthesia.

(Sapir 1944: 134; 太字は、引用者による)

[概要： *upward* と *downward* は、それぞれ、「増加の方向」と「減少の方向」を表している。この純粹に概念上の運動感覚は、おそらく、(言語の違いに関係なく) 一般的に、空間に関して同時に生じる運動感覚 (a concomitant spatial kinaesthesia) によって強められるであろう]

この原註で用いられている *kinaesthesia* という言葉は、第4節 Implications of movement in grading が示すテーマに深く関係する心理・認知上の重要な概念である<sup>5</sup>。また本稿が吟味・考察上の主対象とする第6節 The Classification of Types of Grading Judgment の分類の中にも、根深く反映されているものである。

第5節では、心理的な概念としての equality (同等、同一) というものを扱った。そこでは、二つの対象が同等であるということ、 「以上・以下」の一時的な通過点、もしくは、常に「増・減」の動きのあるスケール上の到達点とみた。ここまでの流れの概観である。

以下、Sapir (1944) の第6節 The Classification of Types of Grading Judgment を吟味する。

## 1. Grading 判断の分類について

サピア(1944:137-139)によれば、Grading に係る判断は大きく15のタイプに分類されるという。当該パラグラフを点検する。

---

<sup>5</sup> サピアの用いる *kinaesthesia* という言葉の概念を巡る考察については、加藤 (2015)、Kato (2016) を参照されたい。

The classification of “equals” applies, of course, equally well to “mores” and “lesses,” so that we have, psychologically speaking, 15 fundamental judgments of grading to deal with, of which the 3 logical ones (“more than,” “equal to,” and “less than”) are the kinaesthetically neutral judgments. The best way to understand this enlarged grading scheme is to express it symbolically. Let  $a \rightarrow q$  be understood to mean “a is less than q and is increasing to it,”  $a \leftarrow q$  to mean “a is less than q and is decreasing away from it,”  $q \rightarrow a$  to mean “a is more than q and is increasing away from it,”  $q \leftarrow a$  to mean “a is more than q and is decreasing toward it.” In other words, “to the left of” means “less than,” “to the right of” means “more than,” while an arrow pointing to the right means “increasing,” an arrow pointing to the left” means “decreasing” An arrow pointing downward will mean “having increased,” an arrow pointing upward will mean “having decreased,” and an arrow superimposed will mean “equal to, with implication of actual or prior movement.” We then have the following symbolically expressed notional scheme of grading judgments which can be made of two entities of the same class, a and q, of which q is supposed to be known and fixed. In the symbolism a will be understood as the subject of the implied proposition.

(Sapir1944:137, 第6節第1パラグラフ ; 下線は引用者による)

[概要：(第5節での「同等」性 (equality) に係る概念の運動感覚 (kinaesthesia) の観点から行う心理的な検討を踏まえて、) その同様の考察が「(当該の) 基準の数量を超えている」(“mores”) や「(当該の) 基準の数量未満」(“lesses”) にも適用可能であり、grading の類型上、15 の判断が得られる。そのうち3つ (“more than,” “equal to,” “less than”) は、運動感覚的に中立的なものである。同じ類の二つの実体を a と q とすると、q は、既知の確定された実体であり、a は、非明示的な命題の主語 (主体) とみなされるが、この二つの実体に係る grading 判断は、「増・減の変化」、「増・減の結果」、そして「同等」を表すものとなる (「同等」については、実際の動きと、それよりも前に生じた動きとの相互関連により非明示的に表現される意味を考慮する)。]

上記概要の中、q について、「既知の確定された実体」と訳出したものは、既知の値や定数を示すものと解釈してよいと思われる。他方、a について、「非明示的な命題の主語 (主体)」と訳出したものは、直接的には述べられなくとも、場面、状況、文脈から推測や解釈ができる命題における主語 (Grading 判断の対象となる主体) と考えてよいかわかると思われる。

上記引用 (Sapir1944:137, 第6節第1パラグラフ) の最終文に言及があるように、このパラグラフ直後に、Types of Grading Judgment とタイトルの付された、計 15 タイプの見取り図がある<sup>6</sup>。その内容は

<sup>6</sup> サピアは、q (数量を表す ; 具体の数字となることもある) と矢印 (→) を巧みに組み合わせる独自の表記法をところどころで用いているが (Sapir1944:137-138)、ここではその表記は割愛する。ただし、シンボル表記が示すところの意味については、15 の類型ごとに cf を付して紹介する。なお、この独自の表記法については、Greenberg (1950) による次のようなコメントがある : “A glance at the article “Grading: a Study in Semantics” in the present volume shows Sapir ready to apply a specially invented symbolism as an aid in analysis and a method of presenting conclusions”. (p. 517)

以下のものである：

I. Explicit dynamic (後述する類型 1, 2, 6, 7, 11, 12 に該当)、II. Implicit dynamic (後述する類型 3, 4, 8, 9, 13, 14 に該当)、III. Nondynamic を大別したうえで、I については、increasing と decreasing の区別を立て (increasing は、後述する類型 1, 6, 11, に該当; decreasing は、2, 7, 12 に該当)、II については、increased と decreased の区別をたてている (increased は、後述する類型 3, 8, 13 に該当; decreased は、後述する類型 4, 9, 14 に該当)。I と II については、q に視点を置いたときの進行中の「増・減の変化」と変化後の「増・減の結果」に係るそれぞれの認識 (grading 判断) を 12 種に分けていると思われる (後述する類型 1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14 に該当)。加えて、III. Nondynamic (後述する類型 5, 10, 11 に該当) については、「増・減の変化」と「増・減の結果」は関係することなく、a と q の数量の大小関係、同等関係に基づき 3 種に分けている。I と II と III を通して、合計 15 種の類型をサピアは示している。

ここで特筆すべきは、「以上」、「同等」、「以下」という grading の判断が、大枠での分類 (～より少ない、～と同じ、～より多い) で終始せず、それらの大枠に、さらに 2 つの観点をかぶせて考察することをサピアが主張している点である。一つは、上方向、下方向 (あるいは増加、減少等) という運動感覚的な (kinaesthetic) 認知、もう一つは、運動感覚的な認知から自ずと生ずる、進行中の増・減変化、加えて、増・減変化後の結果、という、「相」の面からとらえ得る認知であると思われる。

したがって、以下、15 類型に対応するサピアの挙げた具体用例は、場面、状況、文脈に照らして意味を取り扱うこととなる。すなわち、意味論 (semantics) であり、語用論 (pragmatics) の問題であるとも言えよう。各類型に対して、順次、引用者によるコメントを付与しながら吟味してみよう。

Explicitly dynamic (increasing) [明示的に動的 (上方向)]

(1) How far has he run by now? --- He has run less than five miles.

(彼は、現時点までに、どの程度の距離を走ったのですか。  
—— 5 マイルには達しない距離を走ったところです。)

Cf. “is being less than q, though increasing” (= “still falls short of”)

(grading 判断の対象となる主体は、増加しているものの、q 未満になろうとしている状況  
(= 依然 q には達していない)

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。現時点までの走行距離は増してははいるが、5 マイルまでは至っていない走行状況と捉えられる。

Explicitly dynamic (decreasing) [明示的に動的 (下方向)]

(2) How much time can he count on to finish the job? --- He has less than five hours to finish his job.

(彼は、その仕事を片付けるのに、どの程度の時間を見込めるのですか

——5時間は見込めず、それよりも少ない時間でその仕事を片付けねばなりません)

Cf. “is being less than q, though decreasing” (= “falls shorter and shorter of”)

(grading 判断の対象となる主体は、減少しており、さらに q 未満になろうとしている状況 (=q を下回りますます減少する)

この文脈では、q は 5 時間に相当する。その仕事に割ける (残り) 時間は減少しているが、(現在) 5 時間を切っている状況と捉えられる。

Implicitly dynamic (increased) [非明示的に動的 (上方向)]

(3) How far had he got when he stopped running? He ran until he came to a point that was less than five miles from his starting point.

(彼が走るのをやめたとき、(そのときまでに) どの程度の距離を走っていたのか?

——出発点から 5 マイル未満の地点まで走った。)

Cf. “is less than q, though increased from still less” (= “is still short of” )

(grading 判断の対象となる主体は、q よりずっと少ない状態から増えたものの、q 未満の状態 (=依然 q には届かず、q となるには不足している状態)

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。彼が走行をやめた時点では、走行距離を徐々に増やしてきたものの、始発点から 5 マイルには届かなかった、という状況と捉えられる。

Implicitly dynamic (decreased) [非明示的に動的 (下方向)]

(4) How much could he still lift when he had to give up? --- He got weaker and weaker until he could lift less than five pounds.

(彼が重量上げを断念せざるを得なくなった時点で、どの程度の重量を持ち上げられたのか

——彼は徐々に衰弱してゆき、とうとう 5 パウンド未満しか持ち上げることができなくなった)

Cf. “is less than q, and decreased from more” (= “is even short of”)

(grading 判断の対象となる主体は、q 未満であり、q を超えた数量からは減少している) (=予想以

上に q には達していない)

この文脈では、q は 5 パウンドに相当する。持ち上げることを断念せざるを得なかった時点で、彼は徐々に力を失くしていった、持ち上げられる重量は 5 パウンドには至らなかった、という状況と捉えられる。副詞 *even* は、重量上げ可能な重量が 5 パウンドに満たないという不足の状況が、予想していた以上に顕著であるというニュアンスをもたらしているとみられる。

Nondynamic ( $a < q, q > a$ ) [非動的]

(5) How far [a, i.e. required distance] is Jersey City from New York? --- Jersey City is less than five miles from New York.

(Jersey City は、New York からどの程度の距離がありますか

——Jersey City は、New York から 5 マイル未満の距離にあります。)

Cf. “is less than q” (= “is short of”) = “q is more than a”

(grading 判断の対象となる主体は、q を超えない状態 (=q には達しない数量) =q は a 以上)

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。Jersey City は New York から 5 マイルは離れていないという状況と捉えられる。New Jersey が New York との距離関係上、何らかの特定の目的で必要とされる距離は、5 マイルを超えない距離であると考えられる。必要距離は 5 マイル未満である。grading 判断に係る類型 5 を例示する際、サピアが必要距離 (required distance) という概念を用いている点については、さらなる考察が必要であるかもしれない。それは、後述の類型 10、類型 15 についても同様である。

Explicitly dynamic (increasing) [明示的に動的 (上方向)]

(6) How far has he run by now? --- He has run (as much as) five miles.

(彼は、現時点までに、どの程度の距離を走ったのですか。

—— (ちょうど) 5 マイルの距離を走ったところです。)

Cf. “is equaling q, on its way from less to more”

(grading 判断の対象となる主体は、q 未満の状況から q 以上の状況へ移っていく過程にありながら、q になろうとしている)

Cf. While increasing toward and away from (Sapir 1944: 136)

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。現時点までの走行距離は、増しており、(現在) 5 マイル

となっている状況と捉えられる。

ここで、同等性(equality)の概念を扱った第5節でのサピアの解説表現を確認しておく ((Sapir 1944: 136):

(上記(6)の Grading 判断について)

a is less than q to begin with, gradually increases while still less than q, and is later found to be more than q, having passed through some point at which it was neither less than nor more than q; (Sapir 1944: 136)

[概要: (grading判断の対象となる) aは、はじめ、q (数量) 未満であり、なおq未満のまま徐々に減っていき、後に q を超える数量となるが、ある点で、q を超えもしないし q 未満でもない点を通過している]

つまり、Grading 判断(6)は、はじめ 5 マイル未満であり、なお 5 マイル未満のまま徐々に減っていき、後で 5 マイルを超えるわけであるが、ある点で、5 マイルを超えもしないし 5 マイル未満でもない点を通過する。そのような grading の推移の中で生じる、5 マイルを超えもしないし 5 マイル未満でもない地点を捉えようとしている状況と考えられる。

Explicitly dynamic (decreasing) [明示的に動的 (下方向)]

(7) How much time can he count on to finish his job? --- He has (just, still) five hours to finish his job.

(彼は、その仕事を片付けるのに、どの程度の時間を見込めるのですか

——ちょうど5時間見込めます (まだ5時間見込めます)、その仕事を片付けるのに)

Cf. “is equaling q, on its way from more to less”

(grading 判断の対象となる主体は、q を超えた状態から q 未満の状態へ変化する過程にあり、q と同等の状態へ変化している状況)

Cf. While decreasing toward and away from (Sapir 1944: 136)

この文脈では、q は5時間に相当する。その仕事に割ける (残り) 時間は減少しているが、(現在) 残り 5 時間となっている状況と捉えられる。

上記用例(6)と同様に、同等性の概念を扱った第5節でのサピアの解説表現を確認しておく ((Sapir 1944: 136):

a is more than q to begin with, gradually decreases while still more than q, and is later found to be less than



q, having passed through some point at which it was neither more than nor less than q; (Sapir 1944: 136)

[概要：(grading 判断の対象となる) a は、はじめ、q (数量) を超えており、なお q を超えたまま徐々に減っていき、後に q 未満となるが、ある点で、q を超えないし q 未満でもない点を通過している]

つまり、Grading 判断(7)は、はじめ、その仕事に割ける時間は 5 時間を超えた分があり、なお 5 時間を超えた分の時間を確保したまま徐々に減少していき、後に、5 時間未満となるが、ある点で、5 時間を超えもしないし 5 時間未満でもない点を通過する。そのような grading の推移の中で生じる、5 時間を超えもしないし 5 時間未満でもない時点を捉えようとしている状況と考えられる。

Implicitly dynamic (increased) [非明示的に動的 (上方向)]

(8) How far had he got when he stopped running? --- He ran until he came to a point that was just, as much as, already five miles from his starting point.

(彼が走るのをやめたとき、(そのときまでに) どの程度の距離を走っていたのか？

——出発点から、ちょうど 5 マイルの地点まで (5 マイルの地点までも ; すでに 5 マイルの地点まで) 走った。)

Cf. “is equal to q, having increased to it”

(grading 判断の対象となる主体は、q に達し切った状態で、q と同等である状態)

Cf. Having increased toward (Sapir 1944: 136)

この文脈では、q は 5 マイルに相当。走行をやめた時点では、走行距離は始発点から、ちょうど 5 マイルの地点まで (5 マイルの地点までも ; すでに 5 マイルの地点まで) 達していた状況と捉えられる。

上記用例(6), (7)と同様に、同等性の概念を扱った第 5 節でのサピアの解説表現を確認しておく ((Sapir 1944: 136):

a is less than q to begin with, gradually increases while still less than q, and finally rests at some point at which it is neither less than nor more than q; (Sapir 1944: 136)

[概要：(grading 判断の対象となる) a は、はじめ、q (数量) 未満であり、依然 q 未満のまま徐々に増えていき、最後には、ある点で、q 未満でも q を超えもしない点に落ち着く]

つまり、grading 判断(8)は、はじめ走行距離は 5 マイル未満であり、なお 5 マイル未満のまま徐々に増加していくが、走るのを辞める最後の時点には、5 マイルを超えもしないし 5 マイル未満でもない地点にたどり着いた、という状況を捉えようとしているものと考えられる。

Implicitly dynamic (decreased) [非明示的に動的 (下方向)]

(9) How much could he still lift when he had to give up? --- He got weaker and weaker until he could lift (just, only, no more than) five pounds.

(彼が重量上げを断念せざるを得なくなった時点で、どの程度の重量を持ち上げられたのか  
——彼は徐々に衰弱してゆき、とうとう、ちょうど 5 パウンドが持ち上げられる程度となった  
(たった 5 パウンドしか持ち上げられない程度となった ; 5 パウンドを超えた重量は持ち上げられない程度となった)。

Cf. “is equal to q, having decreased to it”

(grading 判断の対象となる主体は、数量 q まで減少してしまい、q と同等の状態)

Cf. Having decreased toward (Sapir 1944: 136)

この文脈では、q は 5 パウンドに相当する。重量上げを断念せざるを得なかった時点で、彼は徐々に力を失くして行って、持ち上げられる重量は、ちょうど 5 パウンドであったという状況 (5 パウンドしかもちあげられなかったという状況 ; 5 パウンドを超える重さはおもち上げられなかったという状況) と捉えられる。

上記用例(6), (7), (8)と同様に、同等性の概念を扱った第 5 節でのサピアの解説表現を確認しておく ((Sapir 1944: 136):

a is more than q, to begin with, gradually decreases while still more than q, and finally rests at some point at which it is neither more than nor less than q; (Sapir 1944: 136)

[概要 : (grading 判断の対象となる) a は、はじめ、q (数量) 以上であり、なお q 以上のまま徐々に減っていき、最後には、ある点で、q 以上でも以下でもない点に落ち着く]

つまり、grading 判断(9)は、はじめ、5 パウンド以上を持ちこたえる力があつたが、なお 5 パウンド以上のままで持ちこたえられる重量が徐々に減少していき、最後には、ある時点で、5 パウンド以上でも 5 パウンド以下でもない重量に落ち着いた、という状況ととらえようとしているものと考えられる。

Nondynamic (a=q, q=a) [非動的]

(10) How far [a, i.e. required distance] is A from B? --- A is (just) five miles from B. a = 5

(A という地点は、B という地点からどの程度の距離にありますか

——A という地点は、B という地点から (ちょうど) 5 マイル離れています。)

Cf. “is equal to q”

(grading 判断の対象となる主体は、q と同等である)

Cf. Statically “equal to” (Sapir 1944: 136)

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。A は、B からちょうど 5 マイル離れたところにあるという状況と捉えられる。A という地点が B という地点との距離関係上、何らかの特定の目的で必要とされる距離 (必要距離) は、ちょうど 5 マイルの距離であると考えられる。

同等性の概念を扱った第 5 節でのサピアの解説表現を参照すれば(cf. Sapir 1944: 136)、grading 判断 (10)は、運動感覚上の関与がないタイプの同等性であり、唯一、論理でのみで捉えうる中立的な grading の類型と考えられるものである。

Explicitly dynamic (increasing) [明示的に動的 (上方向)]

(11) How far has he run by now? --- He has run more than five miles.

(彼は、現時点までに、どの程度の距離を走ったのですか。

—— 5 マイルを超えた距離を走ったところです。)

Cf. “is being more than q, and increasing” (= exceeds more and more”)

(grading 判断の対象となる主体は、q 以上の状況であり、さらに増加している (=q を超え、さらに超えていく)

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。現時点までの走行距離は 5 マイルを超える距離を走り、さらに走行距離を伸ばしている状況と捉えられる。

Explicitly dynamic (decreasing) [明示的に動的 (下方向)]

(12) How much time can he count on to finish his job? --- He (still) has more than five hours to finish his job.

(彼は、その仕事を片付けるのに、どの程度の時間を見込めるのですか

——5 時間以上、見込めます (まだ 5 時間以上を見込めます)、その仕事を片付けるのに)

Cf. “is being more than q, and decreasing” (= still exceeds”)

(grading 判断の対象となる主体は、q を超える状態となっているが、減少している状況 (=依

然 q を上回っている状況)

この文脈では、q は 5 時間に相当する。その仕事に割ける (残り) 時間は減少しているが、(現在) 残り 5 時間を超える時間を割ける状況と捉えられる。

Implicitly dynamic (increased) [非明示的に動的 (上方向)]

(13) How far had he got when he stopped running? --- He ran until he came to a point that was (even) more than five miles from his starting point.

(彼が走るのをやめたとき、(そのときまでに) どの程度の距離を走っていたのか?  
——出発点から (しっかり) 5 マイルを超えた地点まで走った。)

Cf. “is more than q, and increased from less” (= “is even in excess of”)

(grading 判断の対象となる主体は、q 以上であり、q 未満の状態から増加したという状態) (=

この文脈では、q は 5 マイルに相当する。走行をやめた時点では、走行距離は始発点から 5 マイルを (十分に) 超えていたという状況と捉えられる。

Implicitly dynamic (decreased) [非明示的に動的 (下方向)]

(14) How much could he still lift when he had to give up? --- He got weaker and weaker until he could lift hardly more than five pounds.

(彼が重量上げを断念せざるを得なくなった時点で、どの程度の重量を持ち上げられたのか  
——彼は徐々に衰弱してゆき、とうとう、5 パウンドを超えた重量はほとんど持ち上げられない程度となった)

Cf. “is more than q, though decreased from more” (= is still in excess of”)

(grading 判断の対象となる主体は、q を超えた数量から減少したものの、q を超えている状況  
(= 依然 q を超過している)

この文脈では、q は 5 パウンドに相当する。断念せざるを得なかった時点で、彼は徐々に力を失くして行って、5 パウンドを超えた重量は、ほとんど持ち上げられなかった (5 パウンドよりわずかに重い重さは持ち上げられるが、それ以上の重さを持ち上げるのは非常に困難、) という状況と捉えられる。

Nondynamic ( $a > q$ ,  $q < a$ ) [非動的]

(15) How far [a, i.e. required distance] is Philadelphia from New York? --- Philadelphia is more than five miles from New York.

(Philadelphia は、New York からどの程度の距離がありますか

——Philadelphia は、New York から 5 マイルを超えた距離にあります。)

Cf. “a is more than q” (= “is in excess of”) = “q is less than a.”

(grading 判断の対象となる主体は、q を超えた数量である (=q を超過している) =q は a 未満。

この文脈では、Philadelphia は、New York から 5 マイルを超えた距離で離れているという状況と捉えられる。Philadelphia が New York との距離関係上、何らかの特定の目的で必要とされる距離は、5 マイルを超えた距離であると考えられる。

以上の Grading 判断に係る 15 類型の用例は、サビアの見立てにより、明示的な grading、非明示的な grading、非動的(nondynamic) な grading、という 3 種に大きく分けられ、明示的、非明示的な grading は、さらに increasing/decreasing (進行の状況) と having increased/having decreased (完了の状況) の観点から分類され、各々の grading 判断が特徴づけられている。以下、Grading 判断に係る、サビアによる英語の対話用例の内容を、共通する文脈ごとに整理しながら、類例を加えておきたい。

○Explicit dynamic (increasing) : (1), (6), and (11)

(1) How far has he run by now? --- He has run less than five miles.

Cf. “is being less than q, though increasing” (= “still falls short of”)

(6) How far has he run by now? --- He has run (as much as) five miles.

Cf. “is equaling q, on its way from less to more”

(11) How far has he run by now? --- He has run more than five miles.

Cf. “is being more than q, and increasing” (= exceeds more and more”)

——>

今に至るまで、彼が何キロメートル走ったのか、について、「5 マイル」を grading の面からどう受け止めるかについて 3 通りの判断と考えることができる。なおその際、走る距離は増加していく。

- Less than five miles : 5 マイルには届かない距離 (あるいは地点) である。
- As much as five miles : ちょうど 5 マイルの(5 マイルもの)距離 (あるいは地点) である。

- More than five miles : 5 マイルを超えた距離 (あるいは地点) である

類例を見てみよう (ChatGPT3.5 を利用・参照) :

類例その 1

- 文脈: マラソンの競技記録
- 質問: "How far has he run by now?"
- 応答: "He started the marathon at 8 am, and by 10 am, he has covered more than half of the 26.2-mile distance."

類例その 2

- 文脈: 科学実験の進捗
- 質問: "How far has he run by now?"
- 応答: "The experiment began at noon, and by 2 pm, he has covered as much as 80% of the planned testing parameters."

類例その 3

- 文脈: 研究プロジェクトの進行
- 質問: "How far has he run by now?"
- 応答: "Considering the timeline, he has covered less than a quarter of the overall research objectives. There is still much work to be done."

これらの類例では、時間や進捗率に基づいて距離や進行状況を表現している。類例 1 は、サビアの用例同様にマラソン競技上の走行状況に係る *grading* である。類例 2 と類例 3 は、科学実験や研究プロジェクトが、どの程度まで進められているのかに焦点のあたる *grading* であり、動詞 *run* は比喩的に用いられている。また心理的過程としての *grading* は、三類例いづれも、程度性の両端に始まりと終わりのある、閉じた認識対象における、増加方向の (upward) *grading* とみられる (cf. Sapir 1944: 134)。

Explicit dynamic (decreasing): (2), (7), and (12)

- (2) How much time can he count on to finish the job? --- He has less than five hours to finish his job.

Cf. "is being less than q, though decreasing" (= "falls shorter and shorter of")

- (7) How much time can he count on to finish his job? --- He has (just, still) five hours to finish his job.

Cf. "is equaling q, on its way from more to less"

- (12) How much time can he count on to finish his job? --- He (still) has more than five hours to finish his job.

Cf. "is being more than q, and decreasing" (= still exceeds")

—>

(今から) 彼が仕事を終えるのに、何時間を見込めるか、という場合の「5時間」を *grading* の面から心理的にどう受け止めるかについて、3通りの判断を考えることができる。なおその際、仕事をし終えるのに必要な時間は減少していく。

- *Less than five hours* : 見込める時間は5時間はない (5時間をきっている)
- *Just five hours* : ちょうど5時間を見込める
- *Still five hours* : まだ5時間を見込める
- *(still) more than five hours* : まだ5時間以上を見込める

類例を見てみよう(ChatGTP3.5を利用・参照) :

#### 類例その1

- 文脈: 研究プロジェクトの進捗
- 質問: "How much time can he count on to finish the job?"
- 応答: "Considering the current pace, he can count on more than two weeks to finish the data analysis and compile the final report."

#### 類例その2

- 文脈: 論文執筆の進行
- 質問: "How much time can he count on to finish the job?"
- 応答: "With the research phase completed, he can count on just a few days to finalize the paper, as most of the data is already organized."

#### 類例その3

- 文脈: 実験結果のまとめ
- 質問: "How much time can he count on to finish the job?"
- 応答: "As the lab work is still in progress, he can count on less than a week to finish the experiment, analyze the results, and present the findings."

これらの類例では、時間に基づく作業の進捗状況を表している。三つの類例はいずれも、サピアの用例にある“job”の具体的な例として、研究プロジェクト、論文執筆、実験に置き換えた場合の *grading* である。心理的過程としての *grading* は、三類例いずれも、程度性の両端に始まりと終わりのある、閉じた認識対象における、減少方向の (downward) *grading* とみられる (cf. Sapir 1944: 134)。

○Implicit dynamic (increased): (3), (8), and (13)

- (3) How far had he got when he stopped running? He ran until he came to a point that was less than five miles from his starting point.

Cf. “is less than q, though increased from still less” (=“is still short of“)

- (8) How far had he got when he stopped running? --- He ran until he came to a point that was (just, as much as, already) five miles from his starting point.

Cf. “is equal to q, having increased to it”

- (13) How far had he got when he stopped running? --- He ran until he came to a point that was (even) more than five miles from his starting point.

Cf. “is more than q, and increased from less” (= “is even in excess of“)

—>

彼が走るのをやめる時まで何マイルを走り終えたか、について、

- Until he came to a point that was less than five miles from his starting point:

出発点から 5 マイルには至らない「距離（あるいは地点）まで

- Until he came to a point that was just five miles from his starting point:

出発点からちょうど 5 マイルに至った地点まで

Just five miles: 出発点からちょうど 5 マイルの地点まで

As much as five miles: 出発点から 5 マイルもの距離（あるいは地点）まで（距離の多さを強調）

Already five miles: 出発点からすでに（もう）5 マイルの距離（あるいは地点）まで

- Even more than five miles: 5 マイル以上もの距離（あるいは地点）まで

類例をみてみよう（ChatGTP3.5 を利用・参照）：

類例その 1

- 文脈: 実験の進捗
- 質問: "How far had he got when he stopped running?"
- 応答: "In the experiment, he had covered more than half of the required trials when he stopped running due to unexpected equipment failure."

類例その 2

- 文脈: プロジェクトの進行
- 質問: "How far had he got when he stopped running?"
- 応答: "By the time he decided to pause the project, he had already accomplished as much as 80% of the outlined tasks, demonstrating significant progress."

類例その 3

- 文脈: 論文執筆の途中
- 質問: "How far had he got when he stopped running?"
- 応答: "When he stopped writing the paper, he had completed less than a quarter of the document. Additional



research was needed to further support his arguments."

これらの例では、過去に当該の行為が中断されたことを前提に、中断される前の進捗状況に係る動的な性質を非明示的に表現している。類例は、いずれも、実験やプロジェクト、論文執筆が、中断されるまでに、どの程度まで進められたのかに焦点のあたる **grading** であり、動詞 *run* はすべて比喩的に用いられている。また心理的過程としての **grading** は、三類例いずれも、程度性の両端に始まりと終わりのある、閉じた認識対象における、増加方向の (upward) **grading** とみられる (cf. Sapir 1944: 134)。

○Implicit dynamic (decreased): (4), (9), and (14)

(4) How much could he still lift when he had to give up? --- He got weaker and weaker until he could lift less than five pounds.

Cf. "is less than q, and decreased from more" ("is even short of")

(9) How much could he still lift when he had to give up? --- He got weaker and weaker until he could lift (just, only, no more than) five pounds

Cf. "is equal to q, having decreased to it"

(14) How much could he still lift when he had to give up? --- He got weaker and weaker until he could lift hardly more than five pounds.

Cf. "is more than q, though decreased from more" (= is still in excess of")

——>

断念せねばならない時点で (それでもなお) 何パウンド持ち上げられたか、について、持ち上げられる重量は、 $0 \leq W$ 、有限の重量である。加えて、体力を消耗していく (弱っていく) 状況下では、増減からみれば減少の **grading** と考えられる。なお、5 pounds は **implicit grading** cf. Sapir1944 の §2 における類型 2 (implicitly graded by quantification) に該当するとみられる。

- **less than five pounds** : 5 パウンドに届かない重さまで
- **(just, only, no more than) five pounds**: (ちょうど 5 パウンド ; 5 パウンドだけ ; 5 パウンドを超える重さはもち上げられない)
- **hardly more than five pounds** : 5 パウンドよりわずかに重い重さは持ち上げられるが、それ以上の重さを持ち上げるのは非常に困難である重さ

類例を見てみよう (ChatGTP3.5 を利用・参照) :

類例その 1

- 質問: "How much could he still lift when he had to give up?"

- 応答: "He was conducting a series of strength tests in the lab. He got weaker and weaker until, at the point of giving up, he could only lift about 60% of the initial weight he started with."

類例その2

- 質問: "How much could he still lift when he had to give up?"

- 応答: "During the study on muscle fatigue, he experienced a gradual decline in strength. By the time he had to give up, he could still lift around 70 pounds, showcasing the impact of prolonged physical exertion."

類例その3

- 質問: "How much could he still lift when he had to give up?"

- 応答: "At the gym, he was pushing his limits with weights. He got weaker and weaker until, finally, he had to give up, unable to lift more than half of the usual amount he could manage."

類例その4

- 質問: "How much could he still lift when he had to give up?"

- 応答: "In the moving process, he was carrying heavy boxes. He got weaker and weaker until he had to give up, managing to lift only small, lighter items towards the end."

これらの例では、過去に当該の行為がやむなく中断されたことを前提に、中断される前の進捗状況に係る動的な性質を非明示的に表現している。類例は、いずれも、筋力実験やジム・ワーク、荷物運びといった行為が中断されるまでに、どの程度まで進められたのかに焦点のあたる *grading* であり、三類例で用いられている動詞 *lift* はすべて、重力に反して物体を持ち上げるという原義として用いられている。また心理的過程としての *grading* は、三類例いずれも、程度性の両端に始まりと終わりのある、閉じた認識対象における、減少方向の (downward) *grading* とみられる (cf. Sapir 1944: 134)。

○Non-dynamic: (5), (10), and (15)

(5) How far [a, i.e. required distance] is Jersey City from New York? --- Jersey City is less than five miles from New York.

Cf. "is less than q" (= "is short of") = "q is more than a"

(10) How far [a] is A from B? --- A is (just) five miles from B. a = 5

Cf. "is equal to q"

(15) How far [a] is Philadelphia from New York? --- Philadelphia is more than five miles from New York.

Cf. "a is more than q" (= "is in excess of") = "q is less than a."

——>

二つの都市間の距離について、

- Jersey City は、New York から 5 マイルを超えない距離にある。
- A と B の距離はちょうど 5 マイルだ。

・ Philadelphia は、New York から 5 マイルを超えた距離にある。

上記の 類型 5, 10, 15 について、サピアは以下のような記述を残している (Sapir 1944: 138) :

The symbols for nos. 5, 10, and 15 are of course the ordinary mathematical ones,  $a < q$  and  $q > a$  being considered equivalent notations. The sign of equality, =, may, if one likes, be looked upon as the neutralized forms of nos. 6 and 7:  $\approx$ .

[概要 : (具体のシンボル表記全体は本稿において引用上、割愛しているが) grading 判断に係る類型 5, 10, 15 のシンボル ( $<$ ,  $>$ ,  $=$ ) は、通常の数学的な表記法であり ( $a < q$  と  $q > a$  は同等)、等価記号  $\approx$  は、類型 6 (明示的に下方向への動性) と類型 7 (明示的に上方向への動性) が合わさって中和された grading 判断とみなされよう]

この点については、第 5 節 The Concept of Equality でのサピアの主張と併せ、相関的に把握しておく必要がある。

類例を考えてみよう (ChatGTP3.5 を利用・参照) :

類例その 1

- 質問: "How far is San Francisco from Los Angeles?"
- 応答: "San Francisco is more than 350 miles from Los Angeles."

類例その 2

- 質問: "How far is Tokyo from Kyoto?"
- 応答: "Kyoto is just under 500 kilometers from Tokyo."

類例その 3

- 質問: "How far is the airport from downtown?"
- 応答: "The airport is less than 10 miles from downtown."

類例その 4

- 質問: "How far is the conference center from the hotel?"
- 応答: "The conference center is approximately 2 miles from the hotel."

これらの類例は、サピアの挙げた用例のように、質問の意図に「必要距離」(required distance) という概念を前提に据えれば、特定の距離に関する質問に対する具体的な距離や位置関係を示す表現となるのであろう。

しかしながら、類例その 1 では、サンフランシスコとロサンゼルス間の地理的距離はおおよそ 383 マイル (約 614.7km) であることを踏まえて (ChatGTP3.5 利用・参照)、350 マイルを超えた距離である

という応答と考えられるが、他方、400 マイル未満の距離である、という応答も可能であろう（すなわち、"San Francisco is less than 400 miles from Los Angeles.）。両都市間の実際の必要距離、それ自体に動的な性質があるわけではないが、応答者が、350 マイルを基準として必要距離を判断する場合は、別の応答者が400マイルを基準として判断する場合とは異なる grading 判断をとりうる。類例その2, その3, その4においても同様の、grading 判断が想定しうるように思われる。そのような考察が妥当であるとするならば、サピアの原典用例 (5), (10), (15)がいずれも nondynamic（動的性質を持たない）として取り上げていることをどのように受け止めればよいであろうか。

## 2. おわりに

以上、ここまで、サピア(1944)第6節における15の grading 類型について点検、考察をすすめてきた。Grading 判断に係る、これら15の類型に照らして、言語使用上、安堵、失意、満足、不満足等の発話主体がもつ感情 (affect) がどのように関係するのかについては稿を改めて触れていきたい (cf. Sapir 1944: 第7節)。本稿は、サピアの Grading 類型に係る15の用例の整理とその過程で触れた若干の考察、並びに関連する類例の提示にとどめる。考察の不足する点は、適宜、さらに補足を試みていきたい。

## 参考文献

- Greenberg, Joseph H. 1950. "Review of Selected Writings (1949)," *American Anthropologist* 52, pp.516-518.
- 加藤 泰彦 2015. 「サピア意味論三部作」『研究年報』日本エドワード・サピア協会, 第29号, pp. 13-29.
- Kato, Yasuhiko. 2016. "On Sapir's Notion of Kinaesthetic Feeling," *Bulletin of The Edward Sapir Society of Japan*, No. 30, pp. 113-118.
- Sapir, Edward. 1944. "Grading: A Study in Semantics." *Philosophy of Science* 11: 21, pp. 93-116. Rpt. *Selected Writings of Edward Sapir in Language, Culture and Personality* (1949) (ed.) David G. Mandelbaum, University of California Press, pp.122-149. (Rpt. *Collected Works*. Vol. I (2008), pp. 447-470.)
- . 2008. *The Collected Works of Edward Sapir Vol I*. (ed.) Pierre Swiggers. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- 佐々木達・木原 研三 (編) .1995. 『英語学人名辞典』東京：研究社.
- 高橋 玄一郎. 2020. 「E. Sapir 意味論三部作」への序説 (J. Lyons 2008) : E. Sapir 全集からの抄訳 , *Verba* (『鹿児島大学言語文化論集』) 43, pp. 57-66.
- . 2021. 「E.サピアを読む (1) —意味研究に係る “Grading” のより良き理解に向けて—」, *Verba* (『鹿児島大学言語文化論集』) 44, pp.10-23.
- . 2022. 「E.サピアを読む (2) —意味研究に係る “Grading” のより良き理解に向けて—」,

*Verba* (『鹿児島大学言語文化論集』) 45, pp.1-19.

-----, 2023. 「E.サピアを読む (3) —意味研究に係る “Grading” のより良き理解に向けて—」,

*Verba* (『鹿児島大学言語文化論集』) 46, pp.1-15.